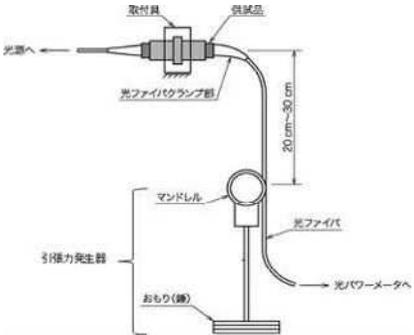


No.	規格 番号	委員名	行番号 (例. 17)	箇条 細分箇条 (例. 3.1)	段落/ 図 / 表 (例. 図 1)	コメントの 種類 ※	コメント	変更提案	検討結果・対応案
1	制定 C6130 0-2-42	波 多 腰 1		1, 7 6.10		ED	芯線/心線や 2 芯/2 心は、他の文書でも“心線”, “2 心”という書き方に統一されているでしょうか。	確認だけなので変更はありません。	「芯」が改定常用漢字表に含まれた後でも、ファイバオプティクスの JIS では「心」に統一しています。
2	制定 C6130 0-2-42	渋谷 隆 1		6.4	図 1	ED	図 1 の“引張力発生器”の矢印の先はマンドレルと錘（おもり）をつなぐ線を示しています。一方、箇条 5.1 には引張力発生器の説明があり、マンドレルを用いることが記載されています。図 1 は、引張力発生器として、マンドレル及び錘（おもり）を用いた例を記載していると解釈できます。	図中の“引張力発生器”を左にずらして、矢印の代わりに、片側波括弧（左側）を用いて、マンドレル及び錘（おもり）を引張力発生器として表示するのが良いと思います。末尾の図を参照願います。	図 1 を修正致します。図 1 及び本文（5.1）を合わせるため、5.1 の第 1 文を「引張力発生器は、おもり（錘）及びおもりによる引張力を光ファイバに伝える手段で構成する。」に修正します。



※コメントの種類

GE = general(一般的)

TE = technical (技術的/専門的)

ED = editorial (JIS 用語/様式)

JIS 案コメントシート

No.	規格 番号	委員名	行番号 (例. 17)	箇条 細分箇条 (例. 3.1)	段落/ 図 / 表 (例. 図 1)	コメントの 種類 ※	コメント	変更提案	検討結果・対応案
3	改正 C6130 0-3-28	波 多 腰 2A	108 109	4.2		ED	“光出力”という用語が“光パワー”とは別に使われています。同じ意味か、区別して使われているのか不明。		光を出力する機能である光源に対しては「光出力」を用い、それ以外の場合、ここでは受光装置に入力する絶対的な光パワーのレベルを表す場合に「光パワー」を用いました。光出力の「出力」は、“output”を意図し、「光パワー」は「電力」を意図していました。今回、JIS C 61300-3 規格群をはじめとして「光出力」及び「光パワー」の用語を確認したところ、「光強度」の意味で「パワー」を用いることが多く、「光強度」の意味で「光出力」を用いる JIS がないことから、108 行及び 109 行の 2 か所の「光源の光出力」を「光源の出力光パワー」に、「公称光出力」を「公称出力光パワー」に修正します。）
4	改正 C6130 0-3-28	渋谷 隆 2	199			ED	8 ページは空白になっています。	ページを詰めてください。	修正致します。

※コメントの種類

GE = general(一般的)

TE = technical (技術的/専門的)

ED = editorial (JIS 用語/様式)

JIS 案コメントシート

No.	規格 番号	委員名	行番号 (例. 17)	箇条 細分箇条 (例. 3.1)	段落/ 図 / 表 (例. 図 1)	コメントの 種類 ※	コメント	変更提案	検討結果・対応案
5	改正 C6130 0-3-28	波 多 腰 2	82 109 116 他	4.2, 4.3, 5.3, 附属 書 A		ED	IEC や CIE では“light”(光)は可視光のみに使用ということになっています。日本語では photo や optical も光のため、「可視光のみに使用」は推奨しないということのようですが、測光用語では“光”と“放射”を区別しています。これにしたがうと、赤外放射も含む場合には、“光源”→“放射源”(あまり使わないが、JIS Z8120 (光学用語)では点放射源, 点光源が定義されている)，“光パワー”→“放射束”(JIS Z8120)になります。光ファイバ関係はほとんど“optical”の翻訳で“光”になっていると思いますが、“光パワー”の用語が少し気になります。光学用語では radiant power で“放射束”ですが、これらは他の文書でも統一がとれていないように思われます。これについて注記を入れなくてもよいでしょうか。光パワーメーター(optical power meter)も radiation detector だと放射(束)検出器	光パワー：光学用語（測光用語）では“放射束”のこと という注記を入れておいたらいかがでしょう。	「光パワーメータ」は業界で広く用いられており、「放射（束）検出器」とすると業界に混乱を与えます。光ファイバ通信（fibre optic communication）は、主に近赤外の電磁波を用いているのはご存知のとおりです。JIS Z 8120 の 01.01.01 には光の定義として「b) 紫外放射から赤外放射までの放射」とあります。光を用いても問題はないと考えます。 ここで用いる光パワーは、光を電力換算（単位はワット、W）した物理量を示しており、JIS Z 8120 では、01.07.08 放射強度に対応します。 光ファイバ通信に関する JIS の読者は、「光パワー」が「光のパワー（電力量）」であることを誤解なく認識できると考えます。また、これまで光産業技術振興協会が原案を作成した光ファイバ通信関連の JIS は、260 件を超えており、その中の多くの JIS で「光パワー」を用いています。これらすべての JIS に“注記”を付与するのは時間と労力を必要とすることからも、現状のままとさせていただきます。

※コメントの種類

GE = general(一般的)

TE = technical (技術的/専門的)

ED = editorial (JIS 用語/様式)

JIS 案コメントシート

No.	規格 番号	委員名	行番号 (例. 17)	箇条 細分箇条 (例. 3.1)	段落/ 図 / 表 (例. 図 1)	コメントの 種類 ※	コメント	変更提案	検討結果・対応案
6	制定 C6130 0-3-54	渋谷 隆 3	92 212 - 218	5.3 参考文献		ED	<p>参考文献の内、JIS B 0615-1 だけが本文で引用されています。他の 3 件の文献は本文で引用されていないので、文献番号[1]～[3]は不要ではないでしょうか？</p> <p>JIS Z 8301 には、文献番号の付与に関する詳細な要求が規定されていません。JIS 原案作成のための手引き第 18 版には、参考文献の記載例が 5 件あり、その中には、文献番号付与及び付与なしが混在する例もあります。</p>	<p>92 行の JIS B 0615-1 の後ろに[1]を付与し、参考文献の[1]～[3]の文献番号を削除し、参考文献の[4]を[1]とするのが良いと思います。また、参考文献を JIS の規格番号順に並び替えることを提案します。</p>	<p>了解しました。</p> <p>92 行の JIS B 0615-1 の後ろに[1]を付与し、参考文献の[1]～[3]の文献番号を削除し、参考文献の[4]を[1]とします。</p> <p>また、参考文献を JIS の規格番号順に並び替えます。</p>

※コメントの種類

GE = general(一般的)

TE = technical (技術的/専門的)

ED = editorial (JIS 用語/様式)

JIS 案コメントシート

No.	規格番号	委員名	行番号 (例. 17)	箇条 細分箇条 (例. 3.1)	段落/ 図 / 表 (例. 図 1)	コメントの 種類 ※	コメント	変更提案	検討結果・対応案
7	制定 C6285 3	波 多 腰 4				ED	他のディペンダビリティシリーズ (JIS C5750) と番号が跳んでいますが、関連性はないのでしょうか。参考文献には挙げられていないようですが。		番号が跳んでいるのは、平成 16 年以來の規格番号一致化 (日本産業規格(JIS)C 部門における一部規格の規格番号の切替えについて) 5 桁化及び IEC に一致した番号体系への移行 (平成 16 年 3 月 20 日) への趣旨を優先したためです。 他の JIS C 5750 シリーズが参考文献に挙げられてない理由は次の通りです。 1. 対応国際規格の IEC 62853 は、ディペンダビリティ関連の最上位規格である IEC 60300-1 を、それと同様の一般性をもって強化するものであり、より特定の側面に関する下位のディペンダビリティ規格とは IEC 60300-1 を通して関連性をもつものです。IEC 62853 の理解はそのような下位規格に依拠するものではありません。そのため、IEC 62853 は IEC 60300-1 を normative reference とし、下位規格は参考文献に挙げていません。 2. 本案も IEC 60300-1 を引用規格とし、参考文献に下位規格を追加することをしていません。 3. IEC 60300-1 に対応する JIS C 5750-1 の現行版は、IEC 60300-1:2003 (第 2 版) に対応するものです。現行版 IEC 60300-1:2014 (第 3 版) は技術的に大きく改訂されており、さらに IEC では第 4 版に向けたより大幅な改訂作業が進行中です。この事情により、この素案では JIS C 5750-1 ではなく IEC 60300-1 を引用規格としています。

※コメントの種類

GE = general(一般的)

TE = technical (技術的/専門的)

ED = editorial (JIS 用語/様式)

JIS 案コメントシート

No.	規格 番号	委員名	行番号 (例. 17)	箇条 細分箇条 (例. 3.1)	段落/ 図 / 表 (例. 図 1)	コメントの 種類 ※	コメント	変更提案	検討結果・対応案
8	C6285 3	渋谷 隆 4	160	3.5		ED	参考文献[15]のようです。	[15]を追記してください。	対応国際規格に合わせてこのままとします。対応国際規格及びこの素案でこのようになっている理由は、参考文献[15]が西暦年を付記しない最新版の参照のためのものであるのに対し、3.5 では特定の西暦年が付記された版の特定の細分箇条を参照する必要があるためです。
			242 246	3.16		ED	参考文献[9]及び[10]で表現が若干異なっています。	表現を合わせるのが良いと思います。	「注釈 2 参考文献[10]における適応力の定義」として注釈 1 に合わせます。
			380	4.4		ED	「スナップショット」を（その場での一時的な記録）などの説明がある方が分かりやすいと思います。	括弧付きの説明を追記することを検討してください。	「明示的合意は、常に暫定的なスナップショット（動的に変化する合意の一時点における内容を写し取った静的な記録）であり」とします。
			400	5		ED	ISO などの番号が分かる参考文献は本文に規格番号を記載するのが良いのではないかと？	本文に規格番号を追記してください。	（JIS X 0134-2 [14] 及び IEC 62741 [15]）」とします。
			1624 1978	A.2		ED	「インフラ」と「インフラストラクチャ」の用語が使われています。	「インフラストラクチャ（システムを支える内部基盤）」及び「社会基盤（社会インフラストラクチャ、社会基盤）」と、分かりやすくすると良いと思います。	1978 行目の「社会インフラ」を「社会基盤」に変更します。他の「インフラストラクチャ」は、JIS X 0170 と同じ意味を同じ言葉で表すため、そのままとします。

※コメントの種類

GE = general(一般的)

TE = technical (技術的/専門的)

ED = editorial (JIS 用語/様式)

JIS 案コメントシート

No.	規格 番号	委員名	行番号 (例. 17)	箇条 細分箇条 (例. 3.1)	段落/ 図 / 表 (例. 図 1)	コメントの 種類 ※	コメント	変更提案	検討結果・対応案
			2305	C.3.2.2		GE	多くの IEC 規格が引用されていますが、参考文献に記載する必要はありませんか？	参考文献への記載を検討してください。	素案作成時に審議し、今回再検討しましたが、対応国際規格に倣って参考文献には追加しないこととします。 この参考要素中の適用例に現われる規格は、規定要素の理解を直接助けるものではありません。そのような規格を数多く参考文献リストにあげるとは、読者が参考文献リストから関連分野及び必要な前提知識を読み取ることを妨げ、読者に実際には存在しない関連性を想起させるため適切ではない、と（IEC TC 56/PT 4.8 での対応国際規格作成時及び）この素案作成時の審議において結論されました。
			2471	C.5		ED	「特定の消費者のアドレスなどのアドレス」は冗長表現ではないですか？	「特定の消費者のアドレスなど」に変更することを検討してください。	「一部のアドレスを隔離すること、例えば供給者のアドレスの接続は保ちつつ消費者のアドレスを隔離すること」に修正します。
			その他			ED	「システムライフサイクル」及び（システムが付かない）「ライフサイクル」の両者が使われていますが、意味が異なるのでしょうか？	同じ意味であれば用語を統一するのが良いと思います。	意味は同じです。しかし「システム」を加える必要はないと判断します。 1. 対応国際規格の英文の段階から、「システムのシステムライフサイクル」となるような冗長な表現は避けられており、この素案でもそれを踏襲しています。 2. システムライフサイクルプロセスに関する最上位規格である ISO/IEC/IEEE 15288 (JIS X 0170)において「ライフサイクル」の語の出現の大多数に「システム」は付けられていない点からも、広く認められ、特に問題のない用法であると判断します。

※コメントの種類

GE = general(一般的)

TE = technical (技術的/専門的)

ED = editorial (JIS 用語/様式)

JIS 案コメントシート

No.	規格 番号	委員名	行番号 (例. 17)	箇条 細分箇条 (例. 3.1)	段落/ 図 / 表 (例. 図 1)	コメントの 種類 ※	コメント	変更提案	検討結果・対応案
						ED	フォールト、エラー、故障の用語が使われていますが、定義の違いは明確なのでしょうか？	注記などで意味を説明すると良いと思います。	この 3 語は引用規格である JIS Z 8115 に定義があり、さらに箇条 3 に「Z8115 による」とあるので注記は不要と考えます。
9	C6285 3	波 多 腰 3	1974	附属書 A		ED	経過報告書 6.(4)で片仮名の“ディペンダブル”の語は避けることとした、となっています。しかし附属書 A の A.2 では“オープンシステムのディペンダブルエンジニアリング”と記載されています。	確認のみ。この場合の“ディペンダブル”はこのままでやむを得ないように思います。	はい、固有名詞の一部であるため、原語との対応を優先しています。
10	廃止 C5961	渋谷 隆 5				GE	廃止後に置き換える一覧の JIS C 61300 規格群が提示されているため、廃止に賛成します。現在、JIS C 5901 及び JIS C 5961 が JIS C 61300 規格群に置き換わることの説明が、(一財)光産業技術振興協会のホームページで公開されています。JIS C 5961 の廃止に伴い、ホームページで公開されている内容を変更する必要があると思います。	—	了解しました。

以上

※コメントの種類

GE = general(一般的)

TE = technical (技術的/専門的)

ED = editorial (JIS 用語/様式)